

鹿市医郷壇



(478)

樋口 一風 選

兼題「味(あじ)」

天

霧島 木林

こん味じゃ慣れ親しんだ母ん味
 (唱) 幼少け頃をばまた思め出せつ
 帰省して久し振りに母さんの御馳走を
 食べ、長いこと都会の味に慣らされた口
 は、母さんの素朴な味に飢えています。
 一口食べてこの味だと、子供のころか
 ら食べ慣れていたお母さんの味を思い出
 しました。
 この句の「こん味じゃ」の上句の出だ
 しが効いています。「こん味じゃ」と「
 と、感嘆符を付けたいところですが、郷
 句には付けられないのが原則です。

地

清滝支部 鮫島爺児医

郷句は一読明解を旨としています。上句のインパクトが強いと目を引きま

味なこつ万葉集から採つ令和
 (唱) 日本人の胸ねひちやつ合つ
 今までは中国の文献から採用していたらしいが、今回は万葉集から引用したとか、しかも大宰府の観梅に由来するとか。
 今回の兼題「味」を食べ物の味と考えている句ばかりでしたが、唯一この句は舌で捉える味では無かった。発想の広がりて効を奏した句で、流石です。

人
 印南 本作
 美味めどち何でん食もつ味音痴
 (唱) 御馳走じゃつたち腹い収めつ
 味覚がそんなに鋭い訳ではないが、自分の口に合えばそれが御馳走です。
 何を食べさせても、おいしい、おいしいと食べてもらえれば、作つた方は張り合います。味に敏感で文句ばかり言われるよりも、よっぽど作り甲斐があるのでは。この人は幸せな方なのでしょう。

五客一席 紫南支部 二軒茶屋電停
 濃い味が続つ血圧ちゃ要注意
 (唱) 塩を減がめちカルテが叱つ

五客二席 上町支部 吉野なでしこ
 高級け魚ん味も分からし平らげつ
 (唱) 河豚刺しなんだ丸で食せ損

五客三席 伊敷支部 谷山五郎猫
 不味じ言たやレシビ通いち言訳しつ
 (唱) 間違げち言わじ我様あ平然

五客四席 醤油屋孫一
 美味め料理嫁ん愛情が隠し味
 (唱) 大概な食堂あ足許て寄せじ

五客五席 清滝支部 鮫島爺児医
 三食の味見は母ん舌で頼つ
 (唱) 何言あならん良か匙加減

秀逸

清滝支部 鮫島爺児医

高段者味な一手を度々と打つ
 生物も産地で食へば美味め味
 大概な料理空つ腹じゃれば美味も食つ
 焼酎飲んも場所が違えば味じゃ変わつ
 小兒ん薬味が悪いかち飲まじ吐つ
 下手な句も良か唱が付たや味が出つ

上町支部 吉野なでしこ

減塩ぬ味が薄かち小言を言つ

伊敷支部 谷山五郎猫

趣味の料理味じゃまだまだんお嬢様
 味占ろつ食卓い上がつ宅ん猫

霧島 木林

味じゃせんち小言つ言ながら病院食
 弁当の御数を換えつ味比べ
 使け込だや良か味が出た革バッグ

醤油屋孫一

良薬が苦げ言が試し飲んでみつ

薩摩郷句鑑賞 120

薩摩狂句曆 三條風雲児著から

鼻つまゆ奥すい通えた卸大根

田代 苦瓜

ぼつぼつ大根の季節である。もつともこのごろほとんど一年じゅう栽培されるので、いつでも食べられるけれども、やはりこれからの大根が、ほんとにおいしいと言えるのではあるまいか。

もちろんいろんな食べ方はあるけれども、この句は大根おろしを詠んだもの。

ツーンと鼻をさすような辛みがあつて、口に入れてからあわてたのかも知れない。それを、つまっていた鼻に、奥まで穴があいたと表現したところが面白い。

出稼つ亭主てがついの案山子す出つ

山内 成康

若い人たちはほとんど「かかし」と呼んでいるが、年輩の人達なら「おどし」という人が多いだろう。鳥威しからきたものである。

さて、出稼ぎに行っている主人そつくりの案山子を立てたというのだが、主人

の服だの、帽子だのを使つたのであろうから、その姿がよく似ているのは当たりまえだといえはそれまでの話し。
 実は出稼ぎに行っている主人を案じたり、恋しく思っている作品と言えるだろう。

薩摩郷句募集

11号

題吟 「無料(ただ)」

締切 令和元年10月7日(月)

12号 題吟 「除夜(としのばん)」

締切 令和元年11月5日(火)

選者 樋口 一風

漢字のわからない時は、カナで書いて応募くだされば選者が適宜漢字をあててくださいます。

応募先 千八九一・〇八四六

鹿児島市加治屋町三番十号

鹿児島市医師会 鹿児島市医報 編集係

TEL 〇九九・二二六・三七三七

FAX 〇九九・二二五・六〇九九

E-mail: ihou@city.kagoshima.med.or.jp